おきたま米づくり情報 No.９

令和 ４年 ７月１２日
置賜農業技術普及課
ＪＡ山形おきたま

斑点米カメムシ類 急増中！
地域全体で防除前の除草を徹底しましょう！

アカスジカスミカメ

ｱｶｽｼﾞｶｽﾐｶﾒ、
ｱｶﾋｹﾞﾎｿﾐﾄﾞﾘｶｽﾐｶﾒともに

発生多い！

アカヒゲホソミドリカスミカメ

被害を防ぐには、防除前に「広域で！一斉に！草刈り徹底！」

・畦畔や農道の斑点米カメムシの密度が非常に高い状況です。防除前に草刈りを徹底し密度低減を図りましょう！

・**２回の基本防除（穂揃期と穂揃期７～１０日後）を徹底する**

・例年、斑点米カメムシ類の被害が多い場合には、補完防除（2 回目の 7～10 日後）の実施を検討しましょう！

・畦畔・農道等、水田周辺の草刈りを、やむを得ず行う場合は、防除直前に実施しましょう

葉いもちが確認されています！
早期発見・早期防除に努めましょう！

・葉いもちの発生がみられます。
葉いもちは穂いもちの発生に直結します。ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう！

発生を確認した場合　→　直ちに治療効果のある薬剤で防除！

※特別栽培の場合、農薬の使用計画に沿った薬剤で防除を行いましょう。

穂いもち

◎熱中症や農作業事故に注意

暑い日が続く予報となっています。農作業は、休息をとりながら、水分や塩分の補給を十分に行いましょう。

中干し後は間断かん水で根の活力維持！

○中干し後は根の活力維持！

・中干し終了後は走り水→飽水管理→間断かん水（2 日湛水・2 日落水）と徐々に間断かんがいに移行し、急激な酸化・還元の変化による根腐れを防止します。

○低温時は下記の対応を取り、被害を最小限に留めましょう！

「前歴深水管理」出穂 25 日前頃から 10cm 程度の深水にしましょう。

「穂孕み期の低温時水管理」…出穂前 14～7 日は最も低温により障害不稔を生じやすいため、最低気温 17℃以下の低温が予想される場合には深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

※深水管理にはあらかじめ畦畔のかさ上げや漏水防止、用水の確保が必要となります。

○7 月 8 日現在の生育状況

・7 月 8 日現在の生育は、草丈は平年並み～長く、茎数は「はえぬき」「雪若丸」で少ない～やや少なく、「つや姫」で多く、葉数はやや多い～多く、葉色は平年並み～濃い状況です。
・農業総合研究センターの幼穂の顕鏡調査では、出穂期は「はえぬき」「雪若丸」で平年より 2 日程度、「つや姫」で 3 日程度早い予想です。

「はえぬき」の生育

項目	川西町（移植 5/22）	
	調査値	平年比（差）
草丈(cm)	57.5	102
茎数(本/㎡)	631	95
葉　数（L）	10.5	+0.5
葉色(SPAD)	43.6	-0.7

「つや姫」の生育

項目	川西町(移植 5/20)	
	調査値	平年比（差）
草丈(cm)	64.1	120
茎数(本/㎡)	607	111
葉　数（L）	10.4	+0.3
葉色（SPAD）	44.1	+1.2

「雪若丸」の生育

項目	高畠町(移植 5/21)	
	調査値	指標比（差）
草丈(cm)	56.2	113
茎数(本/㎡)	574	93
葉　数（L）	11.0	+0.8
葉色（SPAD）	46.7	+5.3

1 か月予報（7 月 7 日発表）

【気温】
7/9～15:低い 10%　平年並 10%　高い 80%
7/16～7/22:低い 20%　平年並 50%　高い 30%
7/23～8/5:低い 20%　平年並 40%　高い 40%
【降水量】　少ない 20%　平年並 40%　多い 40%
【日照時間】少ない 40%　平年並 30%　多い 30%

◎山形県農薬危害防止運動実施中（実施期間 6 月 1 日～8 月 31 日）
農薬使用基準（収穫全使用日数、使用回数など）を遵守し、また、周辺ほ場の農作物や住宅地等への飛散にも十分留意しましょう